

(第1号議案)

平成30年度事業報告

代表幹事 入倉 要

平成30年度(平成30年10月から令和元年9月)を振り返ってみると、5月1日に改元が実施され、令和時代がスタートし、経済面でみると10連休はお祝いムードも手伝ってこの時期例年以上に賑わいを創り出しました。9月に始まったワールドカップラグビーの日本開催、そして来年に迫った東京オリンピック・パラリンピックと、今後も続くビッグイベントの効果が期待されます。

一方で国外に目を向けると、「米中貿易摩擦」「日韓問題」など、先行きが見通せない問題が横たわり、日本経済の足を引っ張る事態となっています。好調を続けていた上場企業をはじめとする大企業さえ、こうした外的要因に足を引っばられ、苦しむ企業が増えました。中小企業や地方経済も、消費税率改定に伴いキャッシュレス化に取り組むなど効率化が推進される一方で、ここ数年続く人手不足から経営が圧迫される事態まで起こっています。

山梨県は、1月に山梨県知事選挙、4月に県会議員選挙をはじめとする統一地方選挙、7月に参議院選挙が行われ、選挙に明け暮れた年でありました。山梨県知事選挙では、二期目に挑戦した現職を退け、「停滞から前進へ」を掲げた自民党系の新人候補が勝利しましたが、8年後の2027年に予定されているリニア中央エクスプレスの開業や中部横断道の南部区間完成などのビックプロジェクトに向けて、力強く動き出した感があります。

そのような中、山梨経済同友会は21年目の活動を展開しました。

この期間で特徴的だったことは、ひとつには、新DCTPが取り組んで山梨県に提言してきた、女性活躍プロジェクト「やまなし女性にプラスプロジェクト」が、新知事によって山梨県の総合計画に採用されることになったことです。経済同友会の提言が今回のように採用されたのは、私の記憶では初めてかと思います。ただし、採用されて良かったのではなく、今後は県との連携をさらに深め、成果につなげるように活動を展開していきたいと思っています。

もう一つの特徴的だった取り組みは、昨年度の「起業家育成」事業をさらに進化させ、大学生に焦点を絞った事業として「つばさを広げる会」を立ち上げたことです。県内の大学のうち山梨大学・山梨県立大学・都留文科大学・山梨学院大学・山梨英和大学と経済同友会が連携協定を結び、年に4回ほど時代の最先端で活躍する経営者やクリエイターをお呼びして、学生に刺激を与える。今後、そのような会を大学と協力して創り上げていきたいと考えています。第一回目の「つばさを広げる会」勉強会は、11月に開催予定です。

内部的には、全員が集まる機会が総会しか無い点を危惧して、新たに全体委員会制度を実施しました。各委員会が会員全体に向けた講演会等の機会をつくり、委員会の枠を超えた連携を強化することが目的です。初年度としてはリニューアル委員会の富士山部会(2/28)とリニア部会(7/11)が開催しました。次年度以降も続けていきたいと思っております。

これまでは他の経済団体との連携を重視してきた山梨経済同友会でしたが、加えて、今年度は山梨県との連携がより深まった一年になったと思っております。協力をいただいた皆様に感謝を申し上げて、事業報告とさせていただきます。



(30. 11. 12 全国代表幹事円卓会議)



(31. 2. 28 全体委員会 (富士山部会主催))



(31. 4. 4 会員交流会)



(31. 4. 23 「やまなし女性にプラス」知事へ提言)



(31. 4. 23 女性活躍プロジェクト記者会見)



(1. 7. 19 「つばさを広げる会」調印式)